

関節鏡下内側半月板手術の治療を受けられた方および そのご家族の方へ

—「内側半月板単独損傷に対する手術症例の検討」へご協力のお願—

研究機関名 岡山大学病院
研究責任者 岡山大学病院 整形外科 講師 古松毅之
研究分担者 岡山大学病院 整形外科 医員 田村優典

1) 研究の背景および目的

近年、半月板損傷に対する治療は、半月板機能の温存のため部分切除術から縫合術へと変遷しています。また中高年女性に好発する内側半月板後根断裂(medial meniscus posterior root tear, MMPRT)は近年の診断と治療技術の向上により、診療の中で出会う頻度が増えています。内側半月板後根断裂は内側半月板の逸脱をはじめとする半月板機能不全を引きおこし、放置した場合には急速に関節症性変化を進行させる事が知られており、膝関節機能を温存するために修復術が勧められています。岡山大学病院を含む関連病院では内側半月板後根断裂に対して経脛骨 pullout 修復術を行っています。本研究の目的は岡山大学病院を含む3つの関連病院(岡山大学病院、光生病院、住友別子病院)で内側半月板単独損傷に対して関節鏡手術を行った症例の半月板損傷の種類および術後臨床成績を調査することです。本研究の結果から整形外科医師が内側半月板損傷の診断と治療を行う際に習熟すべき半月板損傷の種類およびその術後臨床成績について明らかになると考えています。

2) 研究対象者

2016年1月～2019年4月の期間に岡山大学病院を含む3病院(岡山大学病院、光生病院、住友別子病院)で内側半月板単独損傷に対して鏡視下手術を施行した全181人184膝を研究対象とします。

3) 研究期間

倫理審査委員会承認後～2025年3月末日

4) 研究方法

岡山大学病院を含む3病院(岡山大学病院、光生病院、住友別子病院)の内側半月板単独損傷に対して関節鏡手術症例を施行した症例の半月板損傷タイプおよび術後臨床成績を調査します。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除されている情報を使用します。

- 1) 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、患側が左右どちらか
- 2) 手術内容（経脛骨 pullout 修復術、経脛骨 pullout 修復術以外の半月板修復術、半月板部分切除術の

いずれか)

3) 臨床スコア評価

Lysholm knee score、Tegner activity score、Pain score (visual analogue scale)、
International Knee Documentation Committee (IKDC score)、Knee Injury and
Osteoarthritis Outcome Score (KOOS)

6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院整形外科医局図書室倉庫内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 整形外科 田村優典

電話：086-235-7273（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-223-9727

<研究組織> 既存情報の提供のみを行う機関

研究機関の名称	研究責任者氏名
社会医療法人 光生病院	久禮 美穂
住友別子病院	小澤 正嗣